

## 【令和8年度自衛隊札幌病院DCS訓練】

自衛隊札幌病院（病院長 菊池陸将）は、令和8年5月19日（火）から20日（水）の間、DCS（ダメージコントロール手術）集合教育の教官である内野1佐（衛生学校）の支援を受け、病院として初のDCS訓練を実施した。本訓練は、DCS班要員の養成及び技術向上を図ることを目的とし、当院のDCS班をはじめ、北部方面衛生隊、各師・旅団衛生隊等から合わせて42名が参加した。病院長は、訓示の中で「本訓練を通じて、各部隊が保有するDCS班の技能を斉一化するとともに、参加している隊員は今回の訓練で得た成果を今後の部隊訓練等にも反映し、方面隊全体の練度向上に努めてもらいたい。」と述べた。

訓練一日目は、機能別訓練として、外傷初期診療、術中看護及びICU看護の講義、展示及び実技指導を看護部が担当して実施した。参加者は各部隊の代表として高い意識をもって受講し、不明な点等があれば積極的に指導部に疑問等を投げかけていた。続いて、DCS教官である内野1佐から「外傷診療総論」と「外傷蘇生」の講義があり、聴講した病院職員及び各部隊の隊員一同、その講義の内容に深く感銘を受けていた。

訓練二日目は、屋外においてシナリオ訓練を実施した。はじめに患者が搬送され、オスキーの状況付与により術前処置が施され、DCS班へ申し送るという一連動作を訓練した。続いて手術システム車において、ハイブリットシミュレーターを用いた状況を付与し、開腹から応急止血、汚染制御、一時閉腹までのDCSを演練した。手術システム車の外では、カメラによる映像がモニターに映し出され、それを車外にいた訓練参加者が真剣な眼差しで研修していた。

本訓練を通して、チームワークの重要性を認識するとともに、各部隊ごとの知識・技術のばらつきは大幅に縮小し、DCS班の練度の向上と斉一化を図ることができた。

自衛隊札幌病院は今後も、人材育成拠点として当院職員の技能向上のみならず方面隊の内外を問わず衛生科隊員の人材育成に更に貢献していく。そして今後、いつ、いかなる任務が付与されようとも即応し最後まで成し遂げられる組織を引き続き創造していく。



病院長（菊池陸将）



内野1佐（衛生学校）



人工呼吸器管理



動脈ライン管理



術前処置



開腹から応急止血



集合写真（訓練参加者）